



進んで学ぶ子 進んで行動できる子 進んで運動できる子

第40回 町民のつどい 意見発表

「命を救いたい」 宮水小学校 6年 後藤 愛弥 さん

私の祖母は畜産農家です。高千穂町で、朝から晩まで休む間もなく牛たちのために働いている私の自慢の祖母です。私は保育園の頃から、よく週末に祖母の家に遊びに行っていました。だから、牛などの家畜が身近な存在でしたが、当時はまだ将来のことについては何も考えていませんでした。

小学校3年生のある日、父の帰りが遅く、母に理由を聞いてみると、「子牛が生まれないから、父も祖母の家に行っている」ということでした。私は心配でなかなか寝付けず、布団に入って寝たふりをしていました。父が家に帰ってきたのは夜10時過ぎで、父と母の会話が聞こえてきました。父の話によると「なかなか子牛が生まれなくて、牛舎では処置することが難しくなり、父の職場であるNOSAIで帝王切開をした。子牛は助かったけど、母牛は死んでしまった」ということでした。私はいつも見慣れていた牛が死んでしまったということがとてもショックで布団の中で泣いてしまいました。その時、「牛たちの命を救える人になりたい」と将来の目標ができました。命を救う仕事に獣医師が浮かびましたが、男性しかれない職業だと思っていました。何故なら、祖母の家に来てくれている獣医師さんは皆男性ばかりだし、父の職場の獣医師さんも皆男性だからです。だから、将来になりたい仕事の選択肢に獣医師はありませんでした。

そんな私が獣医師という目標を見つけたのは、あるテレビ番組がきっかけでした。それは、UMKの『秘境の牛医』というドキュメンタリー番組で、椎葉村で働く宮下絢香さんという女性獣医師さん特集したものでした。宮下さんは番組の中で「幼い頃、村に獣医師が定住しないことが原因で失われていく牛たちの命を見て、私が獣医師になって村に戻ってくると決意した」と話していました。私はその番組を観て、女性の獣医師がいることや、自分と同じような気持ちをもって獣医師として働いている人がいることに勇気をもらい、「獣医師になりたい」と強く思うようになりました。

そんな私は、獣医師になるために今は3つのことを大切にしています。

裏面に続きます

1つ目は、牛とたくさんふれ合うことです。牛のことをよく知ることが命を向き合う第一歩だと思います。牛とたくさんふれ合うことで、牛の気持ちが分かるようになってくるといいます。だから、休日には祖母の家に行って牛にエサをあげたり、仔牛にミルクをあげたりしています。言葉は話せないけれど、牛の様子で気持ちが分かるようになりたいので今できることをしています。父と祖母と一緒にセリ市にも足を運んでいます。たくさんの牛を見ることが牛の気持ちを知る一つの方法だと思っているからです。

2つ目は、体力をつけることです。獣医師は家畜農家さんに呼ばれれば、昼夜問わず駆けつけなければならないので、気力と体力が重要だと思います。私は今、陸上をしています。主に長距離走に取り組んでいて、体力、気力が必要な練習を積んでいます。自分の技術を向上させることも目標ですが、気力と体力をつけておくことは将来のために役立つと思います。これからも陸上に取り組み、気力と体力の向上を目指していきます。

3つ目は、勉強のことです。獣医師免許という国家資格が必要です。獣医になるための大学に入り、6年間勉強をして、国家資格を取り、2～3年研修医として働き1人前になります。夢を叶えるために勉強は欠かせないので、いろいろな勉強に取り組んでいます。まず、物事に対して、自分で判断し、自分の言葉で伝えられるようになりたいです。そのために日々の学習に取り組めます。

獣医師になるのは簡単ではないけれど、努力を続けて、祖母を助けてくれている獣医師さんやテレビで紹介されていた宮下絢香さんのような立派な獣医師さんになりたいです。

「牛の命を救える人」そして、いつか、「西臼杵の畜産農家を支える家畜獣医師になること」、それが私の夢です。

